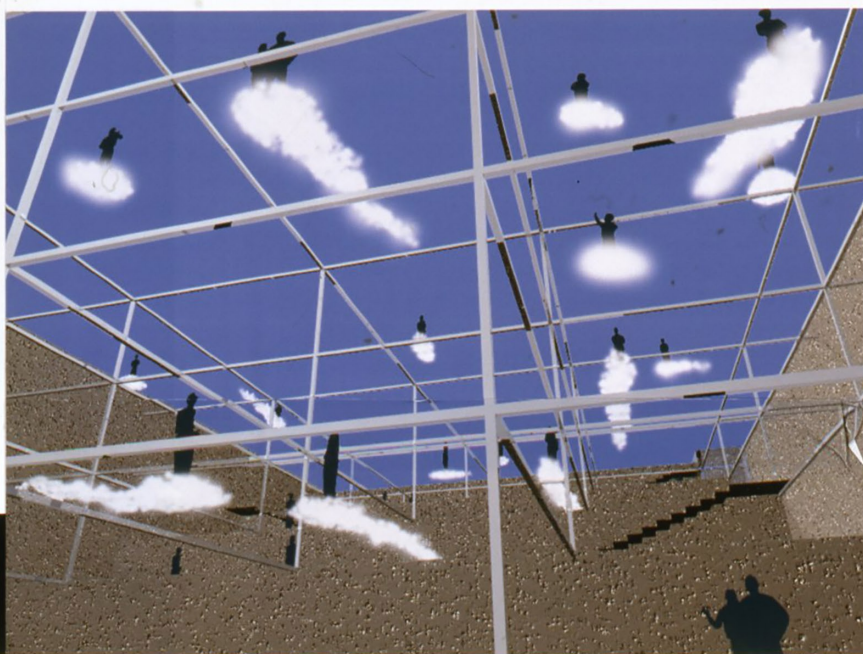


# 荷重感知式液晶ガラス



人が一定の多さになった時の内部パース

アートはどのように成立していくのか・・・

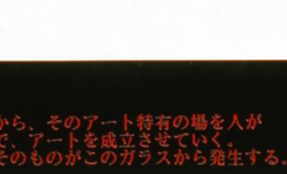
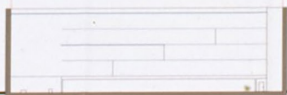
この美術館のスラブはガラスだが人がいないと空っぽの空間・・・

ガラスの上に立つと仮の足場が与えられる雲のように不確定な足場だが人が来るとわずかにアートとの場ができる

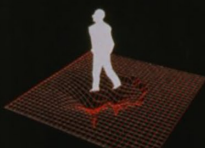
私とあなたとの繊細な関係 私たちとみんなとの微妙な関係 刻々と変化する空間の感じ方

アートの位置と内容、人によって そのアート固有の場ができあがっていく 美術館は展示しているアートと人によって 固有の空間を創り出していく

・・・そしてアートは、アートになる



荷重感知式液晶ガラスは人の体重を感知する



ガラスのひずみに応じて液晶が濁る



体重、移動速度によって残像が残る



人が増えるほど残像は短くなり、少ないほど長く残る

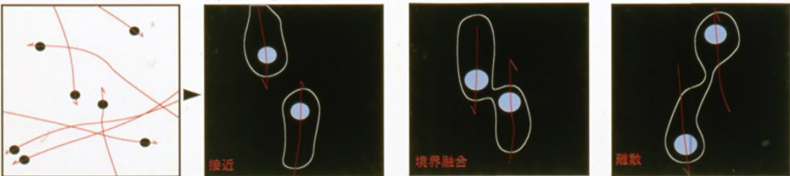


何も無い空間から、そのアート特有の場を人が創り出すことで、アートを成立させていく。アートの意味そのものがこのガラスから発生する。

人が多いときの残像と人との関係

部分の拡大

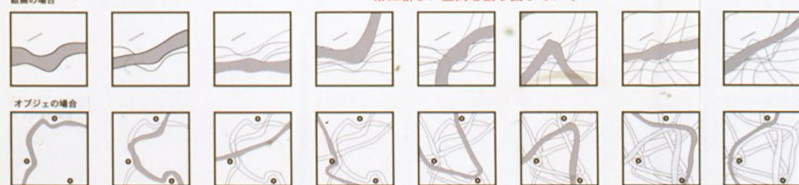
時間



普段何気ない人との距離や空間の感じ方は残像によって発見される

人が少ない時のアートと残像の残り方の関係

残像がゆっくり消えるので、その跡が帯状に重なり常に新しい空間を創り出していく



あなたと私とアートの固有の空間・・・

